**▼調布からは57人が参加**



**「憲法大集会」参加のみなさん**

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

第**217**号

**5月9日**

**２０２３年**

**発行:調布九条の会「憲法ひろば」**

----------------------------------------------------------

〒182-0022 調布市国領町2-5-15 あくろす2階

市民活動支援センター内メールボックス６番

-----------------------------------------------------------

郵便振替**00170-6-445473** 加入者名**大野哲夫**



**E-Mail：choufu9jou@yahoo.co.jp**

**WEBサイトhttp://choufu9jou.sakura.ne.jp**

　１９４７年の憲法施行から76年となった５月３日、全国的に快晴に恵まれ、東京では有明防災公園で「あらたな戦前にさせない！　守ろう平和といのちとくらし　２０２３憲法大集会」が開かれた。集まったのは２万５０００人、調布からの参加も57人。「改憲・大軍拡ＮＯ」「敵基地攻撃能力いらない」「守ろう！　平和・いのち・くらし」の厚紙プレートを掲げて訴えた。

　日本国憲法が施行されて76年を迎えた５月３日（水）、調布｢憲法ひろば｣は「５月例会」を返上して「2023憲法大集会」への参加に集中しました。

　晴れ渡った５月の空のもとに25,000人が参集した集会には、調布からも「憲法ひろば」「戦争はいやだ調布市民の会」をはじめ市内の諸団体・グループから57人が参加しました。記録は丸山重威世話人が担当しました。

**(編集部)**

**あたらしい戦前にさせない！**

**守ろう平和といのちとくらし**

**快晴の有明防災公園に25,000人が参集**

**2023憲法大集会**

**▼現実味帯びた「あらたな戦前にさせない｣**

　開会　会場に着くと売り出し中の「ＴＨＥ　ＢＥＳＳＯＮＳ」（ベーソンズ）のライブ中で即興の語りと歌に歓声が上がっていたが、１時に集会が開会した。

　開会の挨拶に立った実行委員会の高田健さんは、最初の統一集会が開かれた、８年前の横浜集会での大江健三郎さんの言葉を引いて「『平和といのちの尊厳を基本に日本国憲法を守り生かします』とのスローガンを、私たちの生き方の根本としてきたが、いまタモリさんが言った『あらたな戦前』にしない、が現実味を帯びた言葉になっている。安倍首相は立憲主義に一定の敬意を払って、改憲して現実を変えようとしたが、岸田首相は敵基地攻撃能力を持つ戦争準備で改憲を進めようとしている。けさの産経新聞のインタビューでは『来年９月までの任期中の改憲実現』を言っている。この集会の場から絶対に戦争も改憲も許さず戦い抜く決意を固め合おう」と強調した。

　続いて、憲法学者の清末愛砂室蘭工業大教授が「非常勤職員の時給数十円の要求を嘲るように、軍事費43兆円確保の政治を進めている。つないだ手を離さないで進もう」、沖縄大地域研究所の泉川友樹さんが「昨年は沖縄復帰50年。基地の整理・縮小を期待したがご承知の通りだ。中国脅威論が言われるが、72年の共同宣言で、台湾は中国の一部だと認めた。米ソが冷戦終結宣言したマルタのように沖縄を新たな冷戦終結の島にしたい」と述べた。漫画家の東村アキコさんのビデオメッセージを挟み、アピールを確認した。

**▼「戦争国家は許さない」「戦争と差別は手を携えてやってくる」**

　続いて各党代表が発言。立憲民主党の西村智奈美代表代行は「憲法を守らない政権に改憲を語る資格はない」、共産党の志位和夫委員長は「戦争を絶対に起こさせないのが政治家の責任。日本を戦争国家に変える岸田大軍拡を許さない」、れいわ新選組の櫛渕万里共同代表は「昨年の自殺者は２万人以上、先進国で実質賃金が下がっているのは日本だけ」。社民党の福島瑞穂党首は「戦争と差別・排外主義は手を携えてやってくる」とそれぞれ挨拶した。

　そして「市民連合」から、佐々木寛新潟国際情報大学教授が「集団的自衛権の容認から米国と一緒に先制攻撃できるという憲法違反の道を選び憲法を完全に砕こうという思想だ。格差と不平等が拡大し、いつの間にか戦争に巻き込まれる。連帯して非暴力の力で抑え込もう」と挨拶した。

続いて、リレートークに移り、入管法問題で「移住者と連帯する全国ネット」（移住連）の山岸素子事務局長が「日本は『難民鎖国』だ。入管法改悪は日本に逃れてきた人や日本で生まれ育った外国人の子どもを強制送還し、その命をさらに危なくする。衆院法務委で採決が強行されたが、廃案まで声を上げ続けたい」と訴えた。また「馬毛島の米軍施設に反対する市民・団体連絡会」の前園美子副代表は「馬毛島は種子島から12㌔、年間１８０回の訓練をする。爆音がすごくなり島の生活も危うくされる。既に工事の人で空き家がなくなり、２ＤＫ７万円の家賃が30万円に高騰した。最大４０００人が来るといわれ、ゴミ収集ができなくなる。基地に賛成の人もいるが有事になれば攻撃を受ける」と話した。

**▼根源的な女性差別を直視**

　さらに看護師の宮子あずささんは「老いたり、障害を持っている弱者を切り捨てて平気な世の中になっている。虐待や性暴

力に遭った女性を支援する「Ｃｏｌａｂｏ(コラボ)」への異常な攻撃の原因は根源的な女性差別にある。憲法を守る力を広げるためにも女性差別との闘いは常に自分を見つめることだ。これは男性に特に言いたい」と訴えた。

**（２面に続く）**